



入谷小校長室だより 顔晴れ！入谷っ子

2020年2月3日

No. 12

TEL 46-2655

FAX 46-2654

学校教育目標：夢に向かって、主体的に学び、心豊かでたくましく生きる児童の育成

目指す児童像：《 ーかしこくー ーたくましくー ーやさしくー 》

☆いつもまなぼうとする子 ☆りりしくたくましい子 ☆やさしくたすけあう子

心も体も元気な子どもを育成するために 家族みんなではやね・はやおき・あさごはんを実践しよう!!

文責：校長 高橋 有

次への一步を踏み出す準備の月 ー進学・進級に向けて希望を持とうー

2月は各学年が進級に向けて、準備を始める時期です。今年度1年間を振り返って、入谷小学校の児童一人一人が、『自己ベスト』を目指して努力してきた姿を見てきました。その頑張りをもとに、次の「希望」を考えて、次の学年に向けて、「こんなふうになりたいな」「こんなことができるようになりたいな」という強い思いと向上心をもってほしいと思います。



皆さんは、サッカー選手だった北澤豪さんを知っていますか？

サッカーJ1のヴェルディに入る前の彼にも、つらい時期があったそうです。その時に、北澤さんのお父さんがかけたひと言が「お前は自分を本当に理解できているのか？」という言葉でした。

自分が一生懸命練習し、試合でも精一杯動くけど、うまくいかないことを相談すると、「お前は、自分を本当に理解できているのか。監督は、お前が一生懸命やってもうまくいかないことを知っていて、ゲームに出られないなら当然だ。もう一度自分のことを振り返ったらどうだ」と言ってくれたそうです。自分の悪いところをあまり考えていなかった北澤さんは、振り返ることから始め、ノートに自分の失敗したこともどんどん書き込むようになったのです。

その中で、ボール扱いの苦手なことや、自分の癖が相手に知られていることにも気づいていったそうです。このように、自分のよい点ばかりでなく悪い点を見つめ直し、誰よりも早くグラウンドに出て、練習するようになりました。そうすると、ちょっとした工夫で、練習やミニゲームでいい動きができるようになり、監督から声がかかり、ベンチ入りさせてもらえるようになったのです。

ゲームの出た日は、その日のうちに、グラウンドに戻ってできなかったことを反復練習。みんなに見られるのが恥ずかしいので、見つからないように寮をそっと出ることでもあったそうです。この頃から、点を取ることをイメージしながらプレーしていたようです。そうして、着実に、経験と努力を重ね、1993年のJリーグ開幕を読売ヴェルディの一員として迎えることができたのです。

こうして自分の夢を叶えることができた北澤さんは、次のように言っています。

「成し遂げたい強い夢をもっていない人に、『がんばれ、続ける』とは言いたくない。くじけそうになったときに、その場に踏みとどまって、成功したときの自分をイメージする努力をしたほうがいい。途中の失敗も、次の成功のために大切な引き出しになるから」

どんなことでも、努力なしには進めません。自分の夢や目標に向かってまずは、次の一步を踏み出せるように、準備する月にしてほしいと思います。何事も踏み出さないと次に進めません。お子さんが一步を踏み出すときに、保護者の皆さんは、そっと背中を押してあげてください。そして、夢は叶うと教えてあげてください。

《1月の職員会議で教職員に提示したことばです！》



のことば・・・

『○の反対が○のこともある』



《河合 隼雄 (1928～2007年)》

日本の有名な心理学者に、河合隼雄先生(1928年～2007年)という方がいます。

今は、亡くなられてしまいましたが、京都大学の教授や文化庁の長官を務める傍ら中学生や高校生のカウンセラーとして相談にのり、悩みを解きほぐし、多くの人の心の悩みに光を当ててこられた先生です。

この河合先生は、『いのちとこころのNHK中学生日記2』（四季社 2002年）のなかの大平光代さんという弁護士さんとの対談で、こんなことを語っています。

「自分の良いところを書きなさいという質問に、『友達がたくさんいる』という人を○だとすると、『友達が少ない』という人は×になるのですか？『友達が少ない』と書いていても、周りの多くの人が、その子を心から慕っている場合もある。それならば『友達が少ない』という人も○になる場合もあるんですよ。○の反対が×のときもあるし、○の反対が○のこともある。なかなか人間の良いとか悪いとかいうのは難しい事なんですよ。」

また、懇談のなかで、次のようなことも話しています。

「いま、小学生や中学生というとても非常にマイナス面ばかりが強調されていますが、私はまるっきり逆の印象をもっています。僕等の時代よりも遙かに素晴らしい。普段黙っている子供でもある時、自分の考えをちゃんと言うでしょ。誰でも『さなぎ時代』があるのです。表面から見ると少しも動いていないけど、心の中で大きな変化をして見事にチョウになるための成長を自分の中でやってるのです。」

周りの人が自分のことをどう思っているか考えさせることは大切なことですが、自分のよいところを自分で気づいて、見つけて、自信をもって行動してほしいと思います。先生方や両親は、時には反発されることを覚悟して、叱ることもあります。

見捨てるために叱るのではなく、自分のすばらしさに気づいてもらい、自分という「さなぎ」から脱皮して動き出すことを願って叱っていることを子供たちに対し、理解させていきたいです。